

■INDEX ■

[1] 2018 年法科大学院新入生向けセミナー

「これからの時代に活躍が期待される弁護士、難しそうな弁護士」のご案内

[2] 司法試験予備試験の受験状況

ジュリスティックスは毎月 1 回、弁護士・司法修習生・修了生の就職、採用等に関する情報、その他各種調査レポートをメールマガジンでご案内しています。

[1] 2018 年法科大学院新入生向けセミナー

「これからの時代に活躍が期待される弁護士、難しそうな弁護士」のご案内

近年では、特にビジネス領域での法曹・法務人材の需要が高まっており、従来型の法律事務所就職だけではなく、「インハウスローヤー」などの企業就職など、法曹・法務人材の就職・キャリアが多様化しています。

しかしながら、これらの情報が十分に周知されていない部分があり、就職活動に苦勞している修了生が見受けられます。

そこでジュリスティックスでは、法科大学院入学時の早い段階から、法曹・法務人材の就業状況に関するマーケット情報と職域の拡大について知ってもらうとともに、中長期的なキャリア形成について情報提供するセミナーを今年の 4 月より本格的にスタート致しました。

弊社が収集した修了生・弁護士の就業状況の客観的データと多くの修了生、実務家弁護士を日々カウンセリングしている弊社コンサルタントが得た具体的な事例と内実を紹介するとともに、メディアで取り上げられている「弁護士の就職難」「司法試験の合格者数減少」等のネガティブな情報を是正し、法曹、法務人材の様々な可能性を提示したいと考えております。

■ 紹介予定の各種データ

- ・修了生、司法修習終了者、弁護士の就業状況
- ・ビジネス領域で法曹、法務人材の需要が高まっていること、また、その背景
- ・「司法試験合格から法律事務所就職」以外にも様々な職域、キャリアがあること
- ・良い就職、キャリア形成のために必要な知識と能力
- ・法科大学院ごとの修了生の就業状況

■ プログラム内容（予定）

今ビジネス領域で、法律が求められている—

- ・法務のニーズが高まっている背景
- ・法律はビジネスでどのように役立つのか
- ・弁護士と会社員の年収&キャリアの違い
- ・弁護士・法科大学院修了生の就職状況
- ・法律事務所、企業、公務員の特徴と違い
- ・弁護士・法務人材のキャリア事例

開催は、2018 年 4 月の新入生向けオリエンテーションのプログラムの一環、または別途、入学後早期にセミナーの実施期間を設けていただければ幸いです。お声かけいただけますと幸いです。

オリエンテーションをはじめとする学内行事の一環として、多くの学生にご参加いただけるタイミングで開催されることをお勧めいたします。

費用につきましては、交通費実費または学内規程の講師料いずれかを願いますと幸いです。（ご予算の関係等ございますかと存じますので、

柔軟に対応致します。ご相談ください。)

また、新入生向けとは別途、法科大学院進学者を増やすべく「学部生向けセミナー」も随時開催しております。こちらも併せてご検討いただけますと幸いです。

いずれもご連絡いただけましたら、セミナーの企画書のご送付、またはご訪問の上ご説明させていただきますので、どうぞ遠慮なくお問い合わせくださいませ。今年の開催実績は以下の通りです。ご検討のほど何卒宜しくお願い致します。

【2017 年の開催実績】

日程	大学
1 月 25 日 (水)	大阪大学法科大学院
4 月 1 日 (土)	学習院大学法科大学院
4 月 3 日 (月)	同志社大学法科大学院
4 月 4 日 (火)	立命館大学法科大学院
4 月 4 日 (火)	一橋大学法科大学院
4 月 4 日 (火)	上智大学法科大学院
4 月 5 日 (水)	青山学院大学法科大学院
4 月 6 日 (木)	九州大学法科大学院
4 月 13 日 (木)	中央大学法科大学院
4 月 13 日 (木)	首都大学東京法科大学院
4 月 21 日 (金)	立命館大学学部
5 月 22 日 (月)	広島大学法科大学院
6 月 14 日 (水)	関西大学法学部・法科大学院
11 月 21 日 (火)	大阪大学学部

【法科大学院新入生向けセミナー／学部生向けセミナー お問合せ先】

ジュリスティックス 大久保

E-mail : shota.okubo@juristix.com

TEL : 03-6441-0708

[2] 司法試験予備試験の受験状況

@増え続ける予備試験受験者と予備試験経由の司法試験合格者

先週 11 月 9 日 (木) に今年度司法試験予備試験の最終合格発表があり、今年の合格者は過去最多の 444 名、合格率は初めて 4%を超えました。また、過去最少合格者として、18 歳の高校生が出たことも話題になっています。

元々は、旧司法試験制度の終了とともに、経済的事情等の理由で法科大学院に進学しない人を対象として設けられた予備試験制度ですが、近年ではすっかり予備試験＝司法試験受験のための法科大学院のバイパスという認識と、毎年司法試験合格者の上位を予備試験経由の受験者が占めている状況から、予備試験合格者＝優秀層という見方が定着しました。

法曹を目指す学生達にとっては、法科大学院進学の際の経済的・時間的負担を回避できることから、司法試験合格への近道と見なされる傾向が強くなっています。年々、受験者数は増加し、今では予備試験の受験志願者数が法科大学院の志願者数を上回る状態となっています。

それに比例して、予備試験の合格者数、司法試験合格者に占める予備試験経由者の割合、合格率も右肩上がりに上昇しており、今年の司法試験合格者

においてはおよそ 5 人に 1 人 (18.8%) が予備試験経由での合格者となりました。

■ 予備試験の受験状況の推移

	受験者数	合格者数	合格率
2011 年度	6,477	116	1.8%
2012 年度	7,183	219	3.0%
2013 年度	9,224	351	3.8%
2014 年度	10,347	356	3.4%
2015 年度	10,334	394	3.8%
2016 年度	10,442	405	3.9%
2017 年度	10,743	444	4.1%
累計	64,750	2,285	3.5%

■ 男女別の合格者数と割合

	男性	女性	合計
2011 年度	103 (88.8%)	13 (11.2%)	116
2012 年度	197 (90.0%)	22 (10.0%)	219
2013 年度	307 (87.5%)	44 (12.5%)	351
2014 年度	319 (89.6%)	37 (10.4%)	356
2015 年度	354 (89.8%)	40 (10.2%)	394
2016 年度	334 (82.5%)	71 (17.5%)	405
2017 年度	363 (81.8%)	81 (18.2%)	444
累計	1,977 (86.5%)	308 (13.5%)	2,285

■ 年代別の合格者数と割合

	19 歳以下	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40 歳以上	合計
2011 年度	0 (0.0%)	40 (34.5%)	8 (6.9%)	33 (28.4%)	16 (13.8%)	19 (16.4%)	116
2012 年度	1 (0.5%)	86 (39.3%)	39 (17.8%)	30 (13.7%)	26 (11.9%)	37 (16.9%)	219
2013 年度	0 (0.0%)	207 (59.0%)	42 (12.0%)	33 (9.4%)	38 (10.8%)	31 (8.8%)	351
2014 年度	0 (0.0%)	204 (57.3%)	73 (20.5%)	25 (7.0%)	22 (6.2%)	32 (9.0%)	356
2015 年度	0 (0.0%)	238 (60.4%)	69 (17.5%)	26 (6.6%)	20 (5.1%)	41 (10.4%)	394
2016 年度	0 (0.0%)	283 (69.9%)	52 (12.8%)	22 (5.4%)	19 (4.7%)	29 (7.2%)	405
2017 年度	2 (0.5%)	288 (64.9%)	54 (12.2%)	32 (7.2%)	27 (6.1%)	41 (9.2%)	444
累計	3 (0.1%)	1,346 (58.9%)	337 (14.7%)	201 (8.8%)	168 (7.4%)	230 (10.1%)	2,285

■ 職業別の合格者数と割合

	大学生	法科大学院生	無職	会社員	公務員	その他	合計
2011 年度	40 (34.5%)	8 (6.9%)	32 (27.6%)	12 (10.3%)	13 (11.2%)	11 (9.5%)	116
2012 年度	69 (31.5%)	61 (27.9%)	41 (18.7%)	15 (6.8%)	18 (8.2%)	15 (6.8%)	219
2013 年度	107 (30.5%)	162 (46.2%)	36 (10.3%)	14 (4.0%)	10 (2.8%)	19 (5.4%)	351
2014 年度	114 (32.0%)	165 (46.3%)	34 (9.6%)	12 (3.4%)	17 (4.8%)	14 (3.9%)	356
2015 年度	156 (39.6%)	137 (34.8%)	35 (8.9%)	28 (7.1%)	14 (3.6%)	24 (6.1%)	394
2016 年度	178 (44.0%)	153 (37.8%)	31 (7.7%)	21 (5.2%)	12 (3.0%)	10 (2.5%)	405
2017 年度	214 (48.2%)	107 (24.1%)	66 (14.9%)	26 (5.9%)	7 (1.6%)	24 (5.4%)	444
累計	878 (38.4%)	793 (34.7%)	275 (12.0%)	128 (5.6%)	91 (4.0%)	117 (5.1%)	2,285

■ 予備試験合格者数と予備試験経由の司法試験合格者数の推移と割合

	前年度予備試験合格者数	当年予備試験経由司法試験合格者	予備試験経由者の司法試験合格率
2012 年度	116	58	50.0%
2013 年度	219	120	54.8%
2014 年度	351	163	46.4%
2015 年度	356	186	52.2%

2016 年度	394	235	59.6%
2017 年度	405	290	71.6%

■ 司法試験合格者数と予備試験経由合格者数の推移と割合

	司法試験合格者数	法科大学院修了生 合格者数	予備試験経由の 司法試験合格者数
2012 年度	2,102	2,044 (97.2%)	58 (2.8%)
2013 年度	2,049	1,929 (94.1%)	120 (5.9%)
2014 年度	1,810	1,647 (91.0%)	163 (9.0%)
2015 年度	1,850	1,664 (89.9%)	186 (10.1%)
2016 年度	1,583	1,348 (85.2%)	235 (14.8%)
2017 年度	1,543	1,253 (81.2%)	290 (18.8%)

*参照：法務省 HP

http://www.moj.go.jp/jinji/shihoushiken/jinji07_00027.html

@ 予備試験制度の課題と問題点

予備試験制度の課題と問題点については、内閣官房や日弁連から様々な資料や意見が公開されており、また、現在も文部科学省の法科大学院等特別委員会におかれても、今後の法科大学院の在り方含め、法曹養成制度改革について引き続き議論が為されております。

*参考：内閣官房 法曹養成制度改革顧問会議 HP

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/hoso_kaikaku/index.html

(以下一部資料)

- ・予備試験のあり方に関する意見書 法科大学院協会

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/hoso_kaikaku/dai13/siryou8.pdf

- ・法科大学院教育と司法試験予備試験との関係について（委員意見の整理案）

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/hoso_kaikaku/dai9/siryou6_1.pdf

- ・予備試験について（論点整理）

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/hoso_kaikaku/dai8/siryou12.pdf

- ・司法試験予備試験に関する学生からの意見のまとめ（概要）

http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/hoso_kaikaku/dai7/siryou5-5.pdf

- ・司法試験予備試験をめぐる諸問題 - 日本弁護士連合会

<https://www.nichibenren.or.jp/library/ja/publication/books/data/housou3-1.pdf>

本来、予備試験制度は「経済的事情や既に実社会で十分な経験を積んでいるなどの理由により法科大学院を経由しない者」を対象としていましたが、司法試験受験資格を得るために法科大学院のバイパスとして利用される側面が強まっているのが現状です。

これに対し、受験資格の制限や制度自体の廃止を求める意見などもありますが、政府としてはそれによって法曹志願者自体が減少することを懸念し、予備試験制度については、当面は現状のまま維持する方針のようです。

@ 予備試験合格者の採用

予備試験合格者を対象とする採用の現場はどうなっているかと言うと、法律事務所を中心に「予備試験合格者＝優秀層」という認識が定着し、中でも 5 大事務所（西村あさひ、アンダーソン・毛利・友常、TMI 総合、

長島・大野・常松、森・濱田松本）をはじめとする上位事務所は、予備試験合格者向けに事務所説明会やインターンを実施するなど、積極的な採用活動を展開しています。

5 大事務所の 69 期採用においては、実に約 4 割の新卒が予備試験合格者でした。

■ 5 大事務所の 69 期新人弁護士の出身法科大学院別人数と割合

法科大学院	西村あさひ	アンダーソン・毛利・友常	森・濱田松本	TMI 総合	長島・大野・常松	5 大事務所全体
予備試験	15	10	14	5	17	61 (39.1%)
東京	10	20	9	5	7	51 (32.7%)
慶應義塾	8	2	1	1	1	13 (8.3%)
早稲田	4	0	0	1	4	9 (5.8%)
一橋	1	0	2	0	4	7 (4.5%)
京都	1	2	2	1	0	6 (3.8%)
その他	4	0	1	2	2	9 (5.8%)
総計	43	34	29	15	35	156 (100%)

■ 5 大事務所の 69 期新人弁護士のうち予備試験合格経路者の出身大学別人数と割合

大学	西村あさひ	アンダーソン・毛利・友常	森・濱田松本	TMI 総合	長島・大野・常松	5 大事務所全体
東京	6	6	5	2	9	28 (45.9%)
慶應義塾	5	0	4	2	5	16 (26.2%)
中央	2	3	1	0	1	7 (11.5%)
早稲田	0	1	2	0	1	4 (6.6%)
京都	0	0	0	0	1	1 (1.6%)
一橋	1	0	0	0	0	1 (1.6%)
その他	1	0	2	1	0	4 (6.6%)
総計	15	10	14	5	17	61 (100.0%)

※5 大事務所所属弁護士のうち「予備試験合格者」と「法科大学院中退」等の予備試験合格推定者を予備試験合格者とみなして算出

予備試験制度が発足して早 7 年が経ちます。一昨年度、弊社が文部科学省から業務受託した「法科大学院修了生の活動状況に関する実態調査」において修了生、実務家弁護士の方々にインタビューを行った際、予備試験について下記のような意見が聞かれた。

「司法試験対策と法科大学院としての教育のバランスの問題については、試験制度と LS 制度を一緒に考えていかないと駄目。現在は予備試験もあり、事務所は法科大学院に行かない予備試験の人を採用しており、方向性がばらばらになっている」

「予備試験については、当初はお金やルートがない人のためのものであったが、現在、優秀人材は予備試験を使うなどバイパス 的なものになっている。法科大学院の意義・意味が薄れているのではないかと。再整理する必要があると思う」

「司法修習時代に予備試験で受かった人と接する機会があったが、自分の中で組み立てた考えが正しいと思い込み、議論し合うのを避ける傾向にあった。あくまでも自分の意見を曲げない、崩さないため、柔軟性が低いと感じた」

「予備試験合格者の評価が高まる一方、法科大学院に行った人が単なる修了生＝予備試験未合格者として評価が落ちるのはよくない」

「仕事で修了生と関わることもあるが、予備試験上がりの修習生がとりわけ優秀かというとは決してそんなことはない」

「仕事をやらせれば（修了生と）あまり変わらないが、ちょっとした目配りの度合い、つまり人間関係構築において予備試験組が劣る傾向があるようだ」

「本来、弁護士は人間関係の中で求められる職業だが、それを理解しておらず、知識や自分たちの処理結果で評価されると思い込んでいる。実際にはそうではなく、依頼者が求めているものであれば何の価値もないということを理解できないまま、自分が認められず、否定されると感じてしまっている。予備試験組にはそういう困ったところがある」

*参考：平成 27 年度 文部科学省「先導的大学改革推進委託事業」

法科大学院修了生の活動状況に関する実態調査（株式会社ジュリスティックス受託）

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/icsFiles/afieldfile/2016/06/30/1371460_2.pdf

本調査においては、対象が法科大学院修了生とその採用者が中心であったため、予備試験合格者にインタビューする機会が得られず、残念ながら予備試験についてはあまりポジティブな意見が聞かれませんでした。当然ながら上記事例はごく一部であり、大変優秀な予備試験合格者も大勢いらっしゃいます。

弊社が業務上やり取りさせていただいている採用者からは「難関試験を突破してきてだけあり、優秀な人が多い」という声があったり、ある渉外系事務所の弁護士からは「知識はあるが、コミュニケーション能力に欠ける」「実務ではソクラテスメソッド（双方向授業）で訓練された修了生の方が優る」という声もあったり、予備試験合格者の評価は賛否両論様々です。

@予備試験と法科大学院

企業においては、予備試験合格者について法律事務所の採用活動のような特段の動きは見られませんが、法律事務所が予備試験経由での合格者を採用する場合、予備試験制度の構造と受験者の特性上、法律問題の議論の経験値やビジネス領域に関する知識が少なくなる傾向にあります。

そのため、主たる採用者である大手法律事務所が、どのような教育方針・体制でフォローしていくか、というのが採用における今後の課題のひとつになるでしょう。

また、当の予備試験受験者からは「本当に法科大学院に進学するお金がない」「学部在学中に受ければ法曹を目指すのが落ちたら諦める」というような制度本来の趣旨に沿う声もありますが、残念ながらどちらかと言うと、「受かったら法科大学院に行く時間と費用を削減できる」「法科大学院在学中に合格したらすぐに中退する」「事務所など採用側へのアピールになる」といった、制度の趣旨とは真っ向から対立する意向が受験者の大半を占めているのが実情のようです。

費用や時間に関する話題が中心になりがちですが、法科大学院について予備試験受験者からは「法律問題について同級生や教授と色々と議論ができる」「リサーチのノウハウやビジネス領域について学ぶことができる」「法科大学院だと縦や横のつながりができる、予備試験組はそういったネットワークができない」というような趣旨の、比較的ポジティブな意見が聞かれます。

特に同窓生や教授の方々とのつながりというのは、社会人になった後の実務においても有用であり、予備試験受験者から見ても魅力となっているようです。

また、予備試験受験者よりも授業の中で法律問題に関する議論を多く交わすことで一定コミュニケーション能力が磨かれる、というようなところは、法科大学院が今後、入学志願者を増やす上でアピールするポイントになってくるかもしれません。

***** 編集後記 *****

6月から法科大学院協会主催「ロースクールへ行こう!! 2017」が全国各地で開催されていますが、ジュリスティックスも出展させていただいております。弊社からは、法曹志望または法科大学院への進学を検討している大学生・高校生に向けて法科大学院修了生の就活や弁護士の就業状況に関する各種データ情報を提供させていただき、正しいマーケット情報の提供、法曹・法科大学院の魅力向上に尽力しています。

本イベントでは、各会場の開催校・近隣法科大学院OBの実務家の方々が登壇され、法曹を志した理由、普段の業務、法科大学院での勉強の様子等についてお話されています。内容は実務家の方によって様々ですが、法科大学院については、皆さん共通して「行って良かった」と仰っているのが印象的でした。

もちろん登壇者の方々は皆、法科大学院出身者ですし、私も法科大学院をサポートする立場なのでポジショントークのように聞こえてしまうかもしれませんが、実務家の方々が法科大学院についてお話される中で私が感じたのは、

- ・法的な素養と共に論理的思考力が養われる
- ・法律問題の議論の中で実務的なコミュニケーション能力が養われる
- ・文章の読解・作成能力が身につく、長文を読むのが苦にならない
- ・同期や教授とのネットワークができる、困ったら質問できる

etc...

といったような（文章にすると当たり前過ぎる内容で恐縮ですが）、実務において基本的かつ重要な能力であり、社会に出た後に役立つと同時に実際に採用側からも必須要件として求められることが多い能力——このような実務に直結する能力が養われる環境であるということが、実は司法試験の結果如何を問わず、法科大学院の大きな魅力であり、そこには一定の費用と時間がかかるだけの価値が十二分にあるのではないかと思います。

「法曹になること」と「法曹として社会で活躍すること」は似て非なるもので、実務家の方々からは「語学やビジネス、税務など、司法試験以外のことをもっと勉強しておけば良かった」というようなお話をよくお聞きします。

制度発足時とはマーケットが大きく変わり、ビジネス領域を中心に法曹・法務人材の需要が高まっている時分ですが、当事者である学生の皆さんにも改めて「司法試験の先＝就職とキャリア」についてよく知ってもらい、よく考えてもらうことが重要だと感じます。

当面は法科大学院と予備試験が併存する形が続きそうですが、当初、政府の法曹養成制度改革において念頭に置かれていた

- ・法曹有資格者の活動領域の在り方：法曹の新規職域開拓のために
- ・今後の法曹人口の在り方：法曹人口増のために
- ・法曹養成制度の在り方：法科大学院や司法試験、司法修習の在り方

について、法曹・法務人材が社会で活躍し、魅力ある職業となるよう業界関係者が一体となって議論を重ねるとともに、法曹を目指す人達にとって、また、これから法曹を目指す人が増えるよう、より良い制度設計が為されることを期待したいところです。

*参考：法曹養成制度改革の更なる推進について【概要】

<http://www.moj.go.jp/content/001156713.pdf>

*参考：法曹養成制度改革の更なる推進について（詳細）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/012/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/07/15/1359973_02.pdf

（ジュリスティックス 大久保）